

Q 日本人は働きすぎと いうけどホント？



「海外と比較することで、 日本の特殊性が 見えてきます」

フランスを知って
日本をあらためて知る。

3月に高校や大学を卒業して、4月になったら社会人として働き始める日本。新卒一括採用制度のわが国ではごく普通のことですが、世界的に見るとかなり特殊です。私の研究テーマはフランスの職業教育や雇用問題について。現在は、学校での知識の獲得と現場での実践を交互に行い、資格の取得をめざす「交互制職業教育（アプロンティサージュ）」という制度を研究しています。フランスでは採用時、資格が重視され、職業経歴が問われます。つまり働くためには働いた経験が求められるという矛盾が生じるのです。だから働いた経験のない学生が一番不利。フランスの若者の失業率が高い一因はそこにあります。このように海外の例を見ると、単にその国の現状を知ることができるのみならず、海外と日本とを比較することで、翻って日本への理解もさらに深まるのです。

日本の風土に合ったものを
いかにしてつくるか。

いま、日本では働き方改革を進めていこうという気運が高まっていますね。日本人は働きすぎとよく言われますが、確かに時間的にみれば働きすぎ。こういうときには、海外の制度を日本でも取り入れたらどうかという意見もありますが、そんな単純な話ではありません。大切なのは、世界各国の現状を知った上で、日本の特殊性や問題を明らかにすること、あるいは日本の風土にあったものをどうつくっていくかを考えること。また、ワーク・ライフ・バランスについて語るとき、働きすぎているから生活が充実しないといわれ、仕事の方を何とかしようという議論はよくされます。でも逆に、ある水準にまで達した生活を保つためには、その分懸命に仕事をしなければならぬ現状があることも事実。今後はこうした点にも着目したいと思っています。



私の学生時代

研究の道に進む原点、
フランスにあり。

クラスメイトと撮ったフランス留学時代の1枚。1年間でフランス国内はもちろん、スイス、スペイン、アイルランドなどいろいろな国を旅行しました。いま思えば、この留学経験が研究の道に進む原点でした。念のため、私は一番左です。



PROFILE

五十畑 浩平 先生

もともと英米文学科だったという先生いわく、「語学留学でフランスへ行ったときに、日本との働き方に対する価値観の違いに衝撃を受けました。それを機にフランス社会を本格的に学ぶため、再度大学に進学し、大学院にも進みました」。

